

# まちたん

～まちのお宝探検隊～

## 後世に伝えたい宝物

### 乗鞍岳

乗鞍岳は、乗鞍火山帯の中にあり、中期更新世の初期(100万年前)に活動が始まったと考えられる複合火山です。乗鞍岳という峰の名称はなく、剣ヶ峰をはじめとし摩利支天岳など23の峰々と7つの池、8つの平原から成り立っています。

### 高山市民ふるさとシンボル

「乗鞍」は飛騨から眺めた姿が馬の鞍に似ていることから、「鞍が峰」と名付けられ、やがて「乗鞍」と呼ばれるようになりました。(※①)

高山市民憲章をはじめ、市内の多くの小中学校校歌に「乗鞍」が唱われており、乗鞍は高山市に住む多くの



丹生川町新張地区(上野平)から見た乗鞍岳  
(写真提供: 田中彰氏)

人にとって、ふるさとを象徴する大切なシンボルです。

### 乗鞍岳の歴史と乗鞍スカイライン

乗鞍岳は、古くは位山とも愛玉山とも称され、都びとの歌にもしばしば詠まれてきました。大同2年(807)に坂上田村麻呂が登頂したというのが伝説として最も古いとされています。

江戸中期以降には、信仰や雨乞いのため集団で登山していたと伝承され、明治時代になりイギリスの宣教師ウオルター・ウエズトンが登頂。魅力の世界に紹介しました。大正時代には丹生川青年団が登山道の開拓や整備に活躍。地元だけでなく全国からの登山者にも開かれました。また、大正13年には山岳気象観測所も設けられています。

昭和13年、陸軍第二航空技術研究所は高空飛行エンジンの開発を急務とし調査を開始。風洞実験性能テストの候補地に乗鞍岳を並び、平湯峠を起点に長さ16キロメートル、幅3メートルの道路新設を計画。同14年に時の濃飛自動車社長の上嶋清一氏は、将来の観光利用を考えバス運行ができるよう0.6メートルの拡幅を軍部に提案し、増額工事を自社負担することで了承されました。

工事は昭和16年に着手、翌17年に完成。工事を担当した業者は利益の度外視により大損害を被り、資材運搬をした飛騨運輸では、軍の輸送報国のため奉仕を強いられたと記されています。(※②)

昭和23年に軍用道路は県道に編入され、翌年乗鞍登山バスが運行開始。同48年乗鞍スカイライン開通後、多くの人が気軽に乗鞍置平まで行くことができるのは、軍用道路を造る際に民間の方々による多大な投資と奉仕の努力があったおかげです。このことも美しい乗鞍とともに伝えられており、上嶋氏の偉業をたたえ建てられた顕彰碑には、現在も関係者が集まり顕彰祭が行われています。

### 乗鞍の魅力

山頂付近の置平は標高2702メートル。富士山5合目よりも高く、バスで登れる日本二高い場所です。3000メートル級の山だと他では本格的登山になりますが、乗鞍の場合は置平までバスやタクシーで行けるため、山頂へも気軽にいきます。乗鞍岳は飛騨山脈(北アルプス)の南端に位置しており、その眺めはすばらしく、春の雪壁、夏の新緑、秋の紅葉など四季折々の美しさ、快晴の青空、雲海、真夏でも涼しい気候など、その姿は変化し、何度



クロユリ (写真提供: 飛騨乗鞍観光協会)

訪れても違う景色を見せ、楽しませてください。高山植物も数多く生育し、クロユリやミヤ

マキンバインイチゲに、有名なコマクサ。貴重な高山植物のかわいらしい花たちや愛らしいライチョウに出会えることも、乗鞍岳の大きな魅力です。

### 飛騨山脈ジオパーク(構想)

「ジオパーク」とは、ジオ(地球大地)とパーク(公園)を組み合わせた言葉です。

飛騨山脈や周辺地域には、日本列島の形成にかかわる岩石や継続的な地殻変動の痕跡が多数あり、丹生川町工リア(乗鞍岳、五色ヶ原の森など)、奥飛騨温泉郷・上玉町工リア(平湯大滝、槍穂高連峰、笠ヶ岳、双六溪谷など)は、5億年という地質的時間を体験できる国内有数の場所です。

その貴重な地形や地質を保護保全するとともに、パークで大地に親しみ、飛騨山脈の魅力と日本列島の成り立ちに想いを巡らせながら、そのすばらしさを訪れる人たちが分かち合う取り組みが「飛騨山脈ジオパーク(構想)」です。皆さんに楽しんでいただける見どころがたくさんあり、学びながら、ふるさとに誇りを持ち、持続可能な地域をつくることを目的として進められています。



ライチョウの親子 (特別天然記念物)

参考文献 ※①『郷土丹生川』(平成27年) ※②『丹生川村史』(平成12年)